

山行報告

■小富士山と姫路古墳ロード巡り

- 日 程：10月17日(日)
- 参加者：L森本 SL安田 生永 内海 木村 澤田(律) 仲田 春本 藤田 松下 松本(聡)
- 行動記録：御着駅 8:40 発～宮山古墳(9:30 着)9:45 発～阿保古墳群(10:05 着)10:20 発～坂元山古墳群(10:30 着)～小富士山(11:30 着)12:00 発～見野の郷交流館(12:40 着)12:55 発～長塚古墳(13:40 着)13:45 発～火山古墳群(13:55 着)14:20 発～うまいもん横丁(14:30 着)15:15 発～御着駅(15:30 着)

◆好天気 of 山行

内海

出発 JR御着駅。駅前を左へ出て旧山陽道(西国街道)を歩く、踏切を渡り 100m程で「山陽道一里塚」の標柱が見える。標柱の説明には、山陽道一里塚は約 4 km. 毎に設けられ、これより東の一里塚は「高砂市豆崎」西は「姫路市下野」とあり、これを目印に再度歩いてみたい。

古墳巡りの最初は宮山古墳、直径 30mの円形古墳で墳丘(封土)が残され全貌がわかる。阿保古墳群、坂元山古墳群は雑木林に埋もれ見つけ難い。坂元薬師堂は素通りしそうな堂ですが標示板には、「播磨鑑」に国分寺七仏薬師の一つであり、麻生山、火山も国分寺境内であり非常に広大な国分寺境内に位置されていたと記されている。

さて、いよいよ「小富士山」登山。地名の由来に興味があり、この山は、山容の整った山で何時しか「播磨の小富士」と呼ばれ、一夜にして麻が繁茂したから「麻生山」と山の地名はおもしろい。学校裏の登山口より登る、やがて見晴らしの良い東屋、そこから一登りで山頂、手前に「麻生山・華厳寺」石仏が並んで歴史を感じる。好天気であり山頂からの瀬戸内大展望が絶景スポット、光眩しい海と手前に「上島(法楽島)」「鞍掛島」「太島」「男鹿島」「家島本島」など、後ろに「明石大橋」「淡路島」「鳴門大橋」「四国」「小豆島」この景色この広がり見あきない。今日の山行これだけでも満足。

下山後古墳ロードに戻る。見野古墳群は見ごたえあり公園整備され容易に見学できる。気になる古墳は水田の中にある長塚古墳、全長 3 4 mの前方後円墳で墳丘は大幅に削除されている。ほとんどの古墳は丘陵、高台であるがこの古墳は平地(低地)で自然環境が悪く、いままで消滅せず古墳でありえたものだ。火山(ひのやま)古墳群は雑木林、竹林中にあり見つけることが大変で、石室の天井石が



楠木など大木の根を巻き込んだ古墳もあり、まさしく古墳時代の遺物を感じる。

以上、姫路市四郷町は県・市の重要有形文化財の80を超す古墳があり古墳の町四郷町といわれています。今後も整備を進めるとのことです。

約5時間の歩行も完歩出来、ありがとうございました。

■扇山・角尾山・播磨中央公園バラ園

●日 程：10月20日(水)

●参加者：La 瀧原 SLa 垣内 黒本 立花 橋本(万) 平石 本田 山本(清)
Lb 木村 SLb 安田 小田 澤田(律) 徳本 春本 藤原(千)

●行動記録：駐車場9:15 発～登山口(9:30 着)9:35 発～扇山山頂(10:00 着)10:05 発～角尾山山頂(11:40 着)12:15 発～高倉口(13:35 着)13:40 発～公園入口(13:50 着)14:05 発～バラ園(14:30 着)14:40 発～駐車場(14:50 着)

◆秋の里山や公園を楽しむ

橋本(万)

ここ数日で急に寒くなり、11月中旬頃の気温だと天気予報。澄み切った青空と、心地いい冷気が足どりを軽くしてくれた。

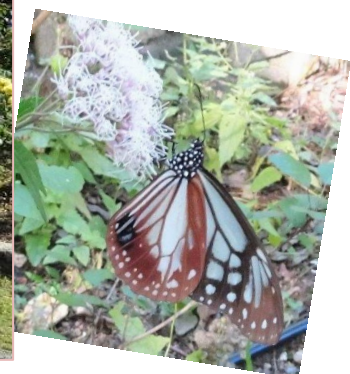
播磨中央公園第3駐車場集合から扇山、岩場が多くなっている角尾山へ。角尾山の山頂からは東に雄岡山、雌岡山から続く明石大橋、淡路島が見える。南前方の山の向こうに煙突群が見えるが高御位山がわからない。西に明神山がきれいな三角すい様に見える。

帰りは高倉口に下り、ぽかぽ温泉源水の前を通り播磨中央公園に戻って来る。

芝生広場を横切り四季の庭のお城をくぐり抜け、ルネッサンス広場から色づき始めた樹木群を通りバラ園へ。その道中、フジバカマの花にアサギマダラが飛んでいた！

深まりゆく秋を感じさせて頂いた山行でした。

瀧原リーダー始め本日の山行仲間に感謝です。ありがとうございました。



【播磨中央公園・バラ園】

■ 20周年記念山行・納山会 氷ノ山

●日 程：10月23日(土)～24日(日)

●参加者：1班 L野村 小田 黒本 島谷 高島 田中(重) 徳本 春本 松下
2班 L砂川(延) 生永 兼本 佐野 澤田(律) 西川 平井 福原 森下 矢根 吉村 和田

●行動記録：[23日]

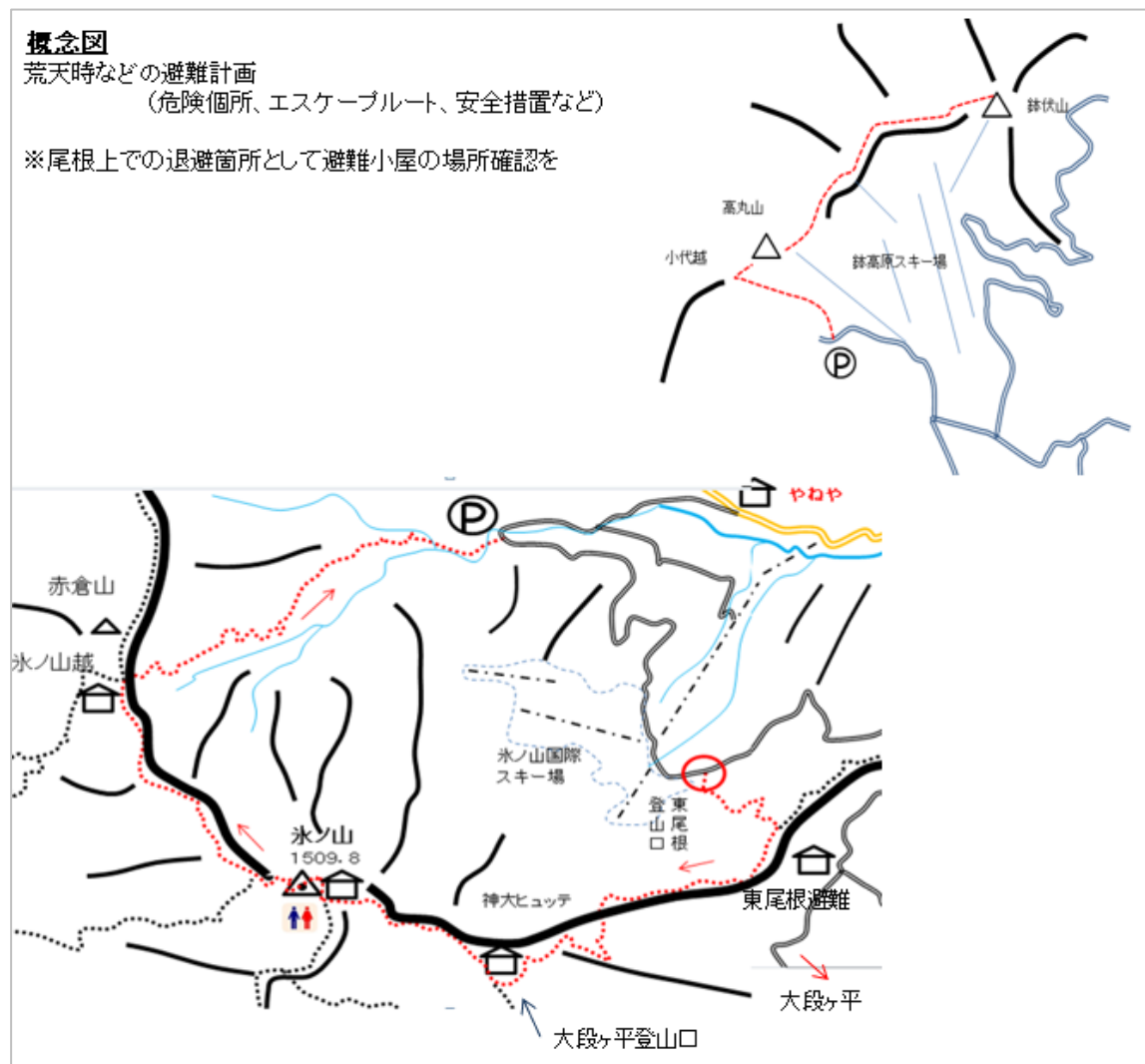
鉢伏高原駐車場 11:30 発～小代越(11:45 着) 12:10 発～高丸山(12:20 着)～鉢伏山(13:05 着) 13:20 発～鉢伏高原駐車場(14:30 着) 14:45 発～民宿やねや(15:00 着)

[24日・1班]

民宿やねや 6:35 発～東尾根登山口(6:50 着) 7:00 発～東尾根避難小屋(7:30 着) 7:35 発～神大ヒュッテ(9:00 着) 9:20 発～氷ノ山頂上(9:50 着) 10:05 発～氷ノ山越(11:15 着) 11:40 発～地藏堂(12:35 着) 発～登山口駐車場(13:30 着)

[24日・2班]

民宿やねや 6:35 発～東尾根登山口(6:50 着) 7:00 発～大段ヶ平登山口(7:15 着) 7:30 発～神大ヒュッテ(8:40 着) 9:05 発～氷ノ山頂上(9:40 着) 10:05 発～氷ノ山越(11:20 着) 11:40 発～地藏堂(12:40 着) 12:45 発～登山口駐車場(13:40 着)



◆20周年記念山行・納山会

高島

新型コロナウイルス緊急事態宣言が9月30日に解除され、兵庫ふるさと応援のキャンペーンの恩恵を受けた中での宿泊山行となりました。私も久しぶりの泊まり山行で数日前からウキウキしておりました。天気予報では姫路方面は晴れでしたが、兵庫県北部は雨のち晴れということで、雨の覚悟で出発しました。

23日鉢伏高原駐車場にお昼前に着き、ウメバチソウの可憐な花とススキに出会い、小代越で昼食をとりました。その後小雨模様となり頂上に上がっても何も見えないだろうな～と言いながらガスの幻想的な中を歩きました。鉢伏山頂上にはリフト小屋と立派なケルンがあり、ガスっていましたが、あっという間にそのガスが風に吹かれてハチ北スキー場方面の景色が顔を見せてくれました。頂上で全員集合写真を撮る準備をして下さっていた田中さん以外は皆、その素晴らしい自然現象を写真に収めたのですが、あっという間にガスにくるまれ小雨の中下山となりました。



民宿やねやさんには15時頃着きミーティングの後、ゆっくり過ごす事が出来ました。夕食の鴨鍋に舌鼓を打ちながら楽しく歓談でき、コロナ禍では出来なかった食事形態が出来、これが当たり前ではない貴重な時間だと思えました。

翌日の24日は、やねやさんから氷ノ山のモルゲンロートを眺めることができ、6時40分に宿出発し東尾根登山口7時出発から本日の登山9人で開始となりました。7時半には東尾根避難小屋に着き、素晴らしい雲海を眺めることもでき早朝登山の気持ち良さを味わいながら、足元のぬかるみで歩きにくい場所もありましたが、野村リーダーの絶妙なテンポ配分のおかげで2時間弱で神大ヒュッテに着きました。そこにはゆっくりリズムの皆さんが先に着かれており、入れ違いのように先に頂上を目指されました。10時頃には山頂で秋晴れの素晴らしい天気の中、記念写真を撮りあい360度の景色を楽しみました。

下山は氷ノ山越方面に向かうと、沢山の登山客とすれ違いパパに背負われた幼児から小さな子供が大人の先頭にたち健脚に歩いている姿に出会うと元気を貰いました。こしき岩から柚谷道が急峻な上ぬかるんでおり滑らないように、この日一番の集中力を発揮しました。1400メートル付近に紅葉前線があったと思われました。柚谷コースは鳥取県で兵庫との県境を歩きあずき転がしと言われる坂を転がるように下ると、最後には素晴らしい65メートルの落差がある布滝が目の前に現れました。この滝の景観を良くするために、養父観光協会の方が周りの木の枝を落として布滝の全景が楽しめるようにして下さったそうです。13時30分頃に福定親水公園に着き、やねやさんに20分ほど歩いて到着しました。

すると女将さんがお風呂に入って下さい。と温かく迎えて下さりお言葉に甘えさせて頂きました。会長さんと春本さんには大段ヶ原の駐車場まで引き返して頂いたので一時間位宿への到着は遅れました。

参加者皆様のおかげさまで美しい風景を眺めながらゆっくり登ることができ、県内の山で癒しの時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

◆兵庫県最高峰氷ノ山(1510m)・鉢伏山(1221m)山行

西川

スキー場駐車場へ11時過ぎに到着、ここで春本さんのマイカーと合流、総員21名が集合した。

今日の計画は鉢伏山ピストンで曇り空の下準備を整え、11時30分スタートする。緩やかな坂を20分登ると小代越、ここで昼食を取り頂上を目指す。階段道では巨大なミミズがお出迎え、このころから雨になり、13時頃鉢伏山山頂に到着、一瞬晴れ間が見えたが氷ノ山方面はガスがかかり見えず残念。記念写真を撮り、それから同じ道を戻り14時30分駐車場に到着、ストレッチの後15時に今日の泊り民宿「やねや」さんに到着、なんでも昔は屋根のお仕事をされていて、それが屋号になったそうです。

明日の氷ノ山山行の説明と宿の部屋割りを聞いてから風呂に入り疲れを取ったあと、18時からお楽しみ夕食、メニューは鉢伏鍋で、カモ、イノブタの肉、トリとカモのひき肉をお団子にしたものと、野菜、ラーメンそば、シメは雑炊でおいしく頂きました。ビールも入り和気あいあいと皆さんくつろいだ様子でした。その後部屋に戻り、21時過ぎにはホーム炬燵を中心に布団を敷き就寝しました。

[10月24日]今日はいよいよ本番、民宿前で記念写真の後マイクロバスで出発。氷ノ山国際スキー場を過ぎてすぐ野村リーダーはじめ、東尾根コース9名が降り、舗装されていないガタガタ道を30分走り、大段ヶ平に到着、会長をリーダーに私を含む12名がこのコースから山頂を目指す。私はどちらにするか迷ったが山頂から福定親水公園までがハードと聞いていたので、大段ヶ平コースを選んだ。

7時30分頃スタート、広くて緩やかな登りは楽ではあるが、木立に付いた鋭い爪痕を見ると気持ちが引き締まる。途中大屋町避難小屋で休憩し8時40分赤い屋根の神大ヒュッテに到着、ここはスズコ狩りでお世話になったところで懐かしい。朝食を取っていると、東尾根コースのメンバーが元気よく登ってきた。

意外と早いのでびっくり。9時過ぎ我々のグループが先にスタートする。しばらく歩くと風景が一変、巨大な杉が林立し倒木はそのままに苔むして原始の世界そのまま。古千本・千本杉と呼ばれている。それから古生沼を過ぎ、山頂の避難小屋の三角屋根が見えたら一安心、9時46分山頂着。山頂からは360度の展望、兵庫北部、岡山県境、京都境の山々が見渡せ、昨日登った鉢伏山、高丸山がはるか下に見える。イヌワシの姿を探したが、そんなに都合よく見ることはできなかった。記念写真のあと、親水公園目指し10時6分出発する。

昨日の雨で道がぬかるんで歩きづらい。11時20分頃氷ノ山越に到着、ここは鳥取県若桜町との分岐点になっている。

ここで食事の後親水公園登山口を目指す。途中、単独行で有名な加藤文太郎が泊まったと言われている地藏堂を見物する。トタンで囲まれて中に古い石仏が3体祀られていた。

その後は下りのみで、連樹と呼ばれる7種の木々が一樹として共存している珍しい樹木を見ると、最後の難関28曲がり(別名小豆ころがし)、名前の由来は、落とした小豆が谷底まで吹っ飛んでいくぐらいの急坂から来たそうです。ネットの情報では実際に28回曲がっているそうです。

ここを何とかクリアし登山口に近づくと右手に不動滝、左手に布滝の水音、不動滝は見えませんが布滝は落差、水量とも有り、曲がり落ちる様は白蛇を連想させる。しばらく河原を歩くと親水公園登山口に13時33分到着し今回の山行は終了。それから民宿に戻りお風呂を頂き、15時40分帰路につく。天候にも恵まれ楽しい山行でした。

砂川会長はじめスタッフの皆様、参加者の皆様有難うございました。

◆氷ノ山(20周年記念山行・納山会)10月23日(土)～24日(日)

晩秋の鉢伏山・氷ノ山を歩く！！

平石

23日、私と森下さんは春本さんが自宅まで迎えに来てくださり、スムーズに参加できてとてもラッキーでした。「春本さん、ありがとうございました。」

それから春本号は、マイクロバスの会長号と連絡を取りながら時間を合わせて走り、現地集合の鉢伏高原スキー場に向かいました。

1日目は、鉢伏高原スキー場を出発して小代越から高丸山を經由して鉢伏山を往復しました。



歩き初めは、明日に向けてのウォーミングアップのようなハイキング気分でした。なだらかな草原を見下ろしながらゆっくり歩いていましたが、途中から雲行きが怪しくなりポツリ、ポツリと雨が降りだしました。この日は雨が降ったりやんだりのあいにくの天気になりました。でも幸運なことに頂上に着いた時は、わずかな間だけパッと視界が広がりみんなで山の景色を見ることができました。山頂からの展望は最高で眼下に広がる緑の高原を見下ろしていると解放感がとても心地良かったです。晴れてる間に急いで集合写真を撮り下山することに、下山道中はまた雨が降りだし濡れた粘土質の土で滑りやすくなっていました。足元をしっかりと見て一步一步慎重に歩き、下山しました。

2日目は、憧れの氷ノ山に登りました。初トライです！！

この日のコースは *東尾根登山口から(健脚グループ)と*大段ヶ平登山口から(ゆっくりリズムグループ)の2つです。

民宿を6時30分に出発したマイクロバスは健脚コースの人たちを先に東尾根で降り、ゆっくりリズムコースはもう少し進んだ大段ヶ平の登山口から歩きました。もちろん私はゆっくりリズムコースです。何年か前にすずこ採りに行った時歩いたような気がする登山道でした。道幅は広く両サイドは笹が群生していました。

昨日の雨とは違って、今日は背後から朝日を浴びながら、歩くことができました。

避難小屋を過ぎ神大ヒュッテまで歩いて、そこで朝昼兼用のお弁当を食べ少し休憩していると最早健脚グループが追い付いてきました。早いですね！さすがです！！

「健脚グループさん、あまり早く追いついて来ないでね！ゆっくり休んでから来てくださいね！」と言いながら(^ω^)・・・

ここからは、下山口の親水公園まで全員同じコースを歩きました。

氷ノ山山頂は広くて、もうすでにたくさんの登山客で賑わっていました。良く晴れていたのが展望も良く360度のパノラマを楽しみました。兵庫県の最高峰の山頂に立つことが出来て

凄く嬉しかったです。下山道は、こちら昨日の雨でじゅるじゅる、ベタベタで滑り易くなっていたのですが、全員事故もなく無事下山出来て良かったです。

紅葉は、少し早いようでしたが、氷ノ山越辺りかな？ブナの自然林がとても綺麗かったのが印象に残っています。

民宿「やねや」さんで温かい鴨鍋をお腹いっぱいいただき、満足、満足、美味しかったです。

久々に大人数で行くことができ、とても楽しかったです。

帰るとき、民宿の人当たりのいい温かい雰囲気的女将さんに手を振って見送ってもらっていると、また行きたくなりました。

☆遠路、安全運転で連れて行っていただきましたお二人のドライバーさんありがとうございました。ご一緒いただきましたみなさんお世話になりました。

祝20周年

今から7年半前、善防公民館で「初めての山歩き教室」でお世話になってから、たくさんの山に行くことができ、たくさんの仲間ができ、楽しい思い出もたくさんできました。そして、たくさんの感動にも出会えました。みんな私の宝物です。

「高御位山遊会」に感謝、感謝です！！ありがとうございます。

***** これからもよろしくお願ひします。 *****

■阿舎利山（宍粟50山）

●日 程：10月29日(金)

●参加者：L佐々木 SL春本 小田 黒本 砂川(延) 西川

●行動記録：二ツ橋登山口 9:10 発～道標石柱 9:30 発～林道出合(梯子) (10:15 着) 10:20 発～頂上尾根 10:55 発～阿舎利山 11:00 発～大ブナの木(11:05 着) 11:40 発～林道分岐(12:10 着) 12:15 発～一山登山口(峠側) 12:55 発～一山登山口(駐車場) 13:40 発～二ツ橋登山口(13:45 着)

◆ミステリアス阿舎利山

春本

宍粟50山で東山、一山と共に旧一宮町と波賀町との境にあり、周りの山名と違う強烈な名称で私は以前から山の由来に興味を持っていました。

イメージは名古屋山霊園の仏舎利、仏像ガールの阿修羅とかに通ずるものを連想します。

独り山行時に地図を見て山名だけでなく同名の川、集落、峠ありで水汲み場では蛇が居てそくさと撒収してしまっただけでもありました。怖いもの見たさでこの計画を佐々木さんが企画されてくじの大当たり並みのうれしさでした。

信仰の山だと信じ込んでいた為、安易に受け入れられるのか変に心配していたのです。

当日の予報で宍粟市は晴れなのに阿舎利山の登山指数は“C”です、私たちに拒んでいるのではと思ってしまいます、春先に計画した時も悪天候で中止になりました。

いよいよ当日朝、車で家原遺跡公園に近づくにつれ雲行きがあやしく風も吹いています。集合地点でリーダーから地図とチェックポイントと方向を詳しく記した表をもらう。パーティ6名皆初めてのコースだしネットの情報も無く、道迷いを心配しての事だと思う。

阿舎利川沿いに車で7km程上流へ、途中名水に立ち寄り殆ど空き家の集落の外れにある登山口表記の小さなスペースに駐車し車を降りると寒くてふるえます。防寒にスパッツ装着して沢沿いにワクワクぶるぶるで、陽も射さずざわつく木立は映画の魔神の山に踏み入った演出効果に感じたのは私だけでしょうか。だんだん急登になりはっきりした踏み跡のないところを登りきって林道まで来てほっと休憩。なーんだ頂上近くまで地図にない林道があったのです。頂上は北に音水湖がわずかに見えるだけで風の通り道みたいでした。風のなさそうな処まで降り昼休憩、阿舎利川源流の立派なモニュメントがあった。

私の想定した信仰の山である祠も祭ったものもないごく普通の山で、案内板も普通。古い林道跡が所々あって西側は特に多く昔に人が分け入ったように感じました。

戦後の植林であろう杉木立や一山の色付いた紅葉を見ながら、猿の捕獲檻あり、斜面崩れや規制ロープありの林道を5kmほど進んで一山登山口すぎて駐車場所まで戻る。

車で東山温泉へ向かい身体を休めたためコーヒブレイクして帰路についたのです。

#この山は「タタラ址遺跡」17世紀頃鉄山として人工的に崩し精錬したそう、鉱山の『アシ』と地崩れの『ヤリ』で『アシヤリ』が転訛したものという説と、鉱物と調合した不老不死の薬を求めた《阿闍莉》の称号を持つ僧侶からついたという説があり、せめて後者であってほしいと思います。



■有馬三山

＜女性委員会＞

●日 程：10月30日(土)

●参加者：L三木(悦) SL尾越 尾内 垣内 田羅間 土井 徳本 松本(聡)

●行動記録：神鉄有馬駅9:00 発～登山口9:05～妙見宮(9:20 着)9:25 発～落葉山9:40～灰形山(10:20 着)10:25 発～湯槽谷山(11:15 着・昼食)11:40 発～湯槽谷峠(12:15 着)12:20 発～極楽茶屋跡(12:50 着)13:00 発～展望所(13:03 着)13:10 発～ガーデンテラス(13:15 着・ティータイム)13:50 発～ロープウェイ山頂駅(13:53 着)14:25 発～ロープウェイ有馬温泉駅(14:38 着)～神鉄有馬駅(14:50 着)

◆はやまった？

松本(聡)

山行案内を見て六甲・有馬の山というだけで申し込みましたが、よくよく読んでみるとアップダウンの続く厳しい山とありました。「ちょっと厳しいかもね」というご意見と「大丈夫、大丈夫」というご意見。迷った末挑戦してみることにしました。結果は・・・。

神戸電鉄有馬温泉駅に集合し、温泉街を少し歩いた後登山口に入って行きました。最初は山道というより妙見宮への参道で、道々西国三十三か所のお寺の名前を刻んだ石があり、それを

見ながら登っていると妙見宮へ着きました。無事今日の山行を終えられることをお願いして先へ進みます。お堂の裏側からはいよいよ山道です。でも気が付けば落葉山の山頂でした。内心「このくらいならなんとかなるかな」なんて思っていたら段々様子が変わってきました。うっそうとした山中の人ひとり通れるだけの細い道、それも石だらけだったり急な長い登りの階段状だったり。よじ登らなければならない所で足がすべり、ずり落ちてしまい皆さんをヒヤッとさせてしまいました。やっとの思いでたどり着いた灰形山、湯槽谷山でした。

三山の頂上が終わったのでホッとして、後は極楽茶屋跡を目指すだけと思っていたら、これまた甘かった。登っても登っても終わらない階段。あの先で終わりかなと思ってたどり着くとその先にまた登り。心が萎えるというより笑いがこみあげてきました。そして「極楽への道は地獄だ」「地獄の後にあるから極楽なのかな」とも。

下りきって極楽茶屋跡に着くと車の走る道・神戸の街並みを見渡せる展望所があり、一気に下界へ降りてきたという感じでした。六甲ガーデンテラスで皆さんが持って来られていたコーヒーをいただき、やっと終わったと心底思えました。



ここからは六甲有馬ロープウェイで有馬温泉駅へ降りていきました。上空から見る山々は紅葉にはまだ早く、深い緑で美しい眺めでした。そしてあんな中を歩いていんだなと感慨深い思いで眺めていました。

今回の山行を無事終える事ができて、リーダーの三木さんはじめメンバーの皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

■読図山行・ロープワーク

<セカンドステップ>

●日 程：10月31日(日)

●参加者：CL 砂川(延) La 佐々木 阿久津 生永 佐野 春本 Lb 和田 天野 小田 橋本(健) 福原

●場 所：高御位山

◆読図山行とロープワーク

生永

最初に市ノ池で講師のSさんに「高御位を初めて来た山やと思ってください」と言われました。私は地点⑥からは本当に初めてです。海が見えなくなると方向が全然わかりません。

資料に書かれてる①～⑮の地点の角度にコンパスの度数を合わせると 進行方向がわかりません。なんて便利なんやと思いましたが その角度をどうやって決めるのかさっぱりわかりません。以前に教えてもらったのは 地図にコンパスをのせて コンパスのへりを現在地と目的地を結ぶように置いて 地図の磁北線とリングの中の線が平行になるようにしてから 針とリングの中の矢印が重なるように体を回す…やったような…。今回のやり方のほうが楽ちんと思いましたが 地点を決めて角度を計算してと準備が大変そうです。アナログ人間なので地図とコンパスで進行方向を見極められるようになりたいけど 頭が固いので難しいです。

ロープワークは今までに何回か教えてもらいましたが、すでにハーネスの結び方を忘れてました。ロープに結ぶクレムハイト？もすっかり忘れてました。もう一度教えてもらって下りました。途中で足を踏み外しロープにぶら下がってじたばたしました。

ロープワークについては、学習会で毎回最初にストレッチしたように、セカンドステップ講座でも毎回最初に「さあロープ結びましょう。はいチェストハーネス、はいフィッシャーマン」といやほど繰り返すのがいいのかなと思います。

コロナのせいで長く長く長ーくかかったセカンドステップが、やっと終了しました。講師の皆様方ありがとうございました。



■小谷城山(218m)～ゆるぎ岩～鏡岩

＜女性委員会＞

●日 程：11月3日(水・祝)

●参加者：La 垣内 SLa 藤原(千) 尾内 黒本 徳本 橋本(万) 村上
Lb 木村 SLb 小田 香川 苦瓜

●行動記録：陽松寺 9:00 発～小谷城跡(9:20 着)9:40 発～休憩(11:00 着)11:10 発～愛宕山(着)11:50 発～ゆるぎ岩(11:50 着・昼食)12:20 発～鏡岩(12:35 着)12:50 発～高峰神社(13:05 着)13:25 発～公会堂駐車場(13:35 着)

◆小谷城跡からゆるぎ岩～鏡岩 山行に参加して

香川

小谷城跡の山行案内を見たときは、琵琶湖の北の浅井三姉妹の居城かな？と一瞬思いましたが、いやいやコロナ禍では県外の山行はないな！と思い返しよく見ると加西でした。

事前にリーダーが小谷城跡についての資料を沢山送って下さいました。

室町時代の山城で、現在は本丸、西小丸、堀等の城跡が残るのみで、同時代中期に起こった「嘉吉の乱(かきつらん 1441年)により滅亡した赤松直操(あかまつ なおもち)の居城後に赤松祐尚(すけひさ)により再建され、ふもとに陽松禅寺を建立し、嘉吉の乱で討ち死にした家臣や一族を供養しました。」とありました。

当日は秋晴れで気持ち良く、立派な仁王様がたっている陽松禅寺でストレッチとトイレを済ませ9:00にスタートしました。2班に分かれて11名の参加です。池の横を通り少し登ると家臣軍の墓、赤松祐尚公の墓もありました。よく手入れされた登山道を20分歩き、218mの本丸跡に到着。小谷城跡の巨大看板、東屋、加西の北条小学校の校歌の看板もありました。360度の展望で南側眼下には加西の街が広がり、遠くには善防山も見えます。バルーンが3個飛んでいました。集合写真を撮り、各自持参したコンパスで方向を確認して、遊歩道尾根伝いコースのスタートです。

軽快にアップダウンを繰り返し、所々で地図とコンパスで方向を確認しながら歩きました。途中倒木を整理して松の木を植林している所が続きました。赤松だそうで将来はマツタケ山に

なるかも・・・？ 北に笠形山等が見える場所で、レーション休憩をして、愛宕山を越えてゆるぎ岩方向に下って行きました。

ゆるぎ岩手前でお昼休憩。ゆるぎ岩は、高さ4メートル、周囲が8メートルあり、善人が押せば動き、悪人が押してもびくともしない岩です。いざ一人ずつ挑戦！なんと全員動いたのです～！



次は鏡岩に到着。岩のキラキラ光っている部分に顔を近づけて、横から光が入らないように手で暗くして光っている所を見ると、木や空が写って見えます。皆それぞれにこれも挑戦しました。不思議な岩でした。

下山場所の高峰神社に13時10分に到着。朝3台車を置いて下さっていたので、分乗させてもらって集合場所の小谷公民館に帰りました。

約4時間の山行でしたが、加西の方々に守られている城跡、尾根歩き、奇岩を楽しむことができました。同行の皆さん、車を用意してくださったメンバーさん、使い方を忘れていたコンパスを蘇らせてもらい、歴史にも触れさせてもらったリーダーのKさん大変お世話になりました。ほんとうに楽しい山行でした。

■高森ボランティア活動

- 日 程：10月16日(土)
- 集合場所：時刻：旧アクア交流館前駐車場・午前9時
- 作業場所：嶽山への登山道（平荘湖東端）
- 参加者：生永 内海 黒本 佐々木 島本 砂川(延) 春本 待場 三木(悦) 森下 和田

報告：砂川(延)

平荘湖東の堤防と堤防間の周遊路から嶽山への登山道入り口から、池尻から上がってくる登山道の合流点までの登山道の草刈り作業を実施しました。

前回、バンバンTVの取材を受けて、去年の11月に同じ場所で作業を行ってから丁度1年を経るようになってきましたが、1年たつとかなり草木が覆いかぶさってきているので、1年に一度は行う必要があるように感じています。又、当日「嶽山登山入口」内海さん手製看板がリニューアル工事を経て入り口に再設定作業も併せて行っています。

